

# 日蓮大聖人御書全集

じょうこうみょうじ

ごじょう

## 浄光明寺への御状

新版  
863  
〜  
864

# 浄光明寺への御状

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

じようこうみようじ

文永5年

(1188)

10月11日

47歳

浄光明寺

だいまうここく

こうてい

にほんこく

うば

よし

ちようじよう

わた

大蒙古国の皇帝、日本国を奪うべきの由、牒状を渡す。

せんねんりつしろうあんこくろん

かんが

もう

すこ

このこと、先年立正安国論に勘え申せしごとく少しも

そいうい

ないないにほんだいいち

けんじよう

おこな

ぞん

相違せしめず。内々日本第一の勸賞に行わるべきかと存

そうろう

ごしようたん

あず

そうろう

ぜしめ候のところ、あまつさえ御称歎に預からず候。

かまくらじゆう

じゃくそ

たぐ

りつしゆう

ぜんしゆう

これしかしながら、鎌倉中の著麤の類い、律宗・禅宗

とう

こくおう

だいじん

む

ひぼう

わ

あく

と

ゆえ

等が「国王・大臣に向かつて、誹謗して我が悪を説く」の故

はや

にひやくごじっかい

なげう

にちれん

き

じようぶつ

ご

なり。早く二百五十戒を抛って、日蓮に帰して成仏を期す

べし。もししからずんば、「無間に墮在す」の根源ならん。  
むけん だざい こんげん

この趣、方々へ披露せしめ候い畢わんぬ。早く一処に  
おもむき かたがた ひろう そちら お はや いっしょ

集まって対決を遂げしめ給え。日蓮、庶幾せしむるところ  
あつ たいけつ と たま にちれん しょき

なり。あえて諸宗を蔑如するにあらざるのみ。法華の大王  
しょうじゅう べつじよ ほっけ だいおう

戒に対して小乗蚊虻戒、あに相對に及ばんや。笑うべし、  
かい たい しょうじようもんみようかい あいたい およ わら

笑うべし。  
わら

ぶんえいごねんじゆうがつじゆういちにち

文永五年十月十一日

にちれん かおう

日蓮 花押

きんじよう じようこうみようじじしやんちゆう

謹上 浄光明寺侍者御中